

出穂期24日後頃の薬剤防除の徹底を

～ 水田内雑草の発生ほ場で斑点米カメムシ類が多い ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 8月4半旬に80地点で実施した抽出ほ場調査における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数は1.5頭（平年1.3頭）でやや多く、発生地点率は30%（平年29%）で平年並であった（表-1、図-1）。特に、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草（イヌホタルイやシズイ）が発生しているほ場では斑点米カメムシ類の発生が多かった（表-2）。
- 2) 8月18日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。
- 3) 以上のことから、今後も斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想され、斑点米被害の増加が懸念される。

2. 防除対策

- 1) 斑点米は、登熟期後半から発生する割れ粳の増加に伴い、側部加害が主体となるので、2回目の防除が重要となる（図-2）。そのため、降雨により出穂期10日頃の1回目の防除が適期に行われなかったほ場やノビエなどの水田内雑草があるほ場、牧草地や休耕田などの発生源に隣接しているほ場では、出穂期24日後頃に、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤を散布する。
- 2) 茎葉散布剤はエクシード剤（使用時期は収穫7日前まで）又はキラップ剤（使用時期は収穫14日前まで）とする。ただし、セジロウンカが多発しているほ場では、可能な限りエクシード剤を選択する。

3. その他

- 1) 畦畔・農道及び雑草地（法面や休耕田など）の草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行う。
- 2) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努める。

4. 資料

表-1 水田内での斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月4半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)
2022	1.5	30	0.9	25	0.5	11
平年	1.3	29	1.1	23	0.2	7
概評	やや多	並	やや少	並	多	多

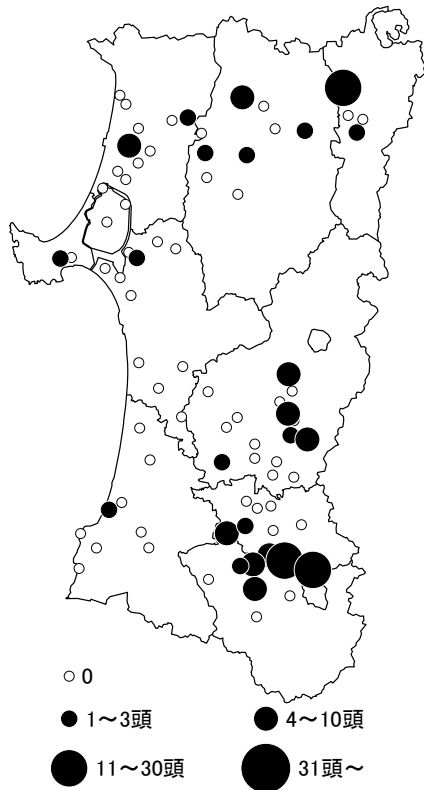


図-1 水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月4半旬)

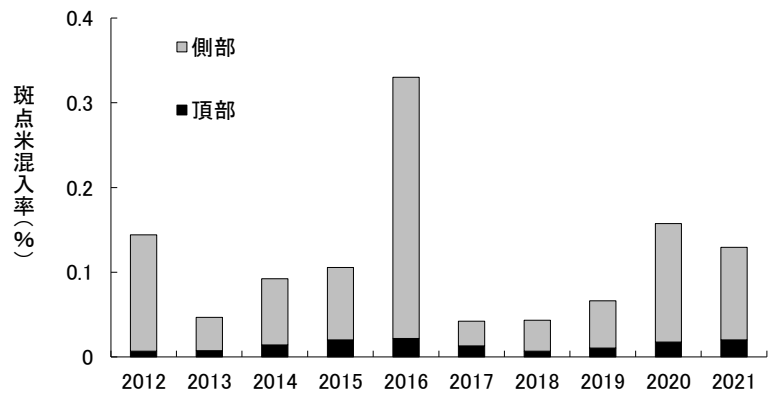


図-2 斑点米の加害部位別混入率の年次推移 (年)

表-2 水田内雑草の発生状況別すくい取り数(8月4半旬)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況 別地点数	斑点米カメムシ類 (頭)
あり	24	2.3
なし	56	1.1

※水田内20回すくい取り調査

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>